

藤色のユニフォーム復活

昭和五十九年度 第六十三回全国高校サッカー選手権大会第三位

出場権獲得

本校サッカー部は、県大会決勝戦で東海大一高を三対一で破り、五年ぶり十八回目の全国高等学校サッカー選手権大会の出場権を得ました。以来、この第六十三回全国大会に向けて昨年の十二月十六日から二十日までの校内合宿と、二十二日から二十五日までの東京遠征、そして二十六日から二十八日までの最後の校内合宿とチームの強化に万全の準備を行ないました。

特に二十二日から二十五日の東京遠征では、本大会の宿舎である本郷「つたや旅館」に宿泊し、初戦が行なわれる江戸川競技場を使って、本番と全く同じ条件で、対武南高、対前橋商高との練習試合を行ないました。両試合とも本校が勝利を制する成果を挙げました。また二十九日には、藤枝市役所サッカーチームに壮行試合をしていただき、特に市役所チームのスピード感溢れる試合運びは大変勉強になり、又元気を付けられました。藤枝市役所チームは、全国自治体サッカー大会に毎年優勝する強豪であり、滝監督をはじめとして多くのOBが選手として活躍しています。また毎週木曜日には、本校サッカー部のために夜遅くまで練習試合等に胸を貸して下さい、チームの強化に大変なご貢献をいただきました。このご尽力については、全く感謝の言葉もありません。いよいよ三十日の出発の日、玄関には同窓会・サッカー後援会・サッカー部父母の会より作っていただいた真新しい「蹴上王者」の垂幕が掲げられ、壮行会には、市長様を始め来賓の皆様、多くのお言葉を、そして応援団、多くの市民による心からのご歓送の裡を、一路東京へと向かいました。

備 え

宿舎である「つたや旅館」は、スポーツ関係の一流選手も宿泊す

る旅館なので、安心して選手の健康管理を任せることができました。又この主人は大変なサッカー通であり、本大会の関係資料も沢山いただきました。また大会中は、連日ビデオ持参で応援に駆けつけて下さいました。特に食事については、普段の三倍の量が出され、我々は量の多さに圧倒され、太ることを恐れもしました。選手は、いよいよ本番に近づきました。東京第一日目の朝は七時起床、そして日課通り東大構内の朝の散歩を行ない、朝食後、宮崎義正氏の案内で三菱重工サッカーグラウンドに向かいました。宮崎義正氏は

現在三菱重工サッカー部で活躍中のOBで、氏のご助力で貴重なグラウンドをお借りすることができました。グラウンドには本校第二十回卒の塩沢進午氏が出迎えて見えておられ、同窓生の有難さを痛感いたしました。又氏には、江戸川競技場で、選手の一人が骨折した時も大変なお世話になりました。つくづく有難いことと思われました。練習後、氏より「気持を込めてボールを蹴るように」と、そして、「悔いを残さない試合をするように」との貴重なお言葉をいただきました。十二月三十一日の大晦日には、



於大宮サッカー場

準々決勝

計画に従って午後十一時、必勝祈願参拝のため明治神宮へ出発しました。原宿駅に着くと、想像以上の人出で、さすが明治神宮であると感じながら、参拝者の群の後に続きました。しかし、あまりの群衆でなかなか前に進むことができず、一時間程して漸く拝殿に辿り着きました。必勝祈願の参拝を済ませ、宿舎に帰って来た時には午前二時を回っていました。一月一日は朝一同お雑煮を祝ってもらい、正月気分を味わいました。

いよいよ開会式です。天候も穏やかな元日日和で、会場の国立競技場は多くの観衆で埋まりました。正午、華やいだ気分の中にも、何か緊張感のある開会のセレモニーが始まりました。本校は二十六番目の行進です。静岡県代表藤枝東高校の場内アナウンスがあると、会場内の拍手は一段と大きくなり、藤色のユニフォームが眩しい程でした。本校選手の正々堂々の行進は全四十八校中の三本の指に入る立派な行進でした。

開会式終了後、現在日立サッカー部で活躍されているOBの山口芳忠、碓井博行、杉本正義三氏のご助力でお借りいただいた日立サッカーグラウンドで、好条件のもとで練習を行なうことができました。グラウンドには前記三氏も早速駆けつけて下さり、選手の練習にも一段と力が入りました。碓井氏より「苦しくても下を向くことのないように」との激励の言葉を頂戴し、その日の練習を終りました。二日は、午前中、昨日と同様日立グラウンドで、明日に備えての軽い練習を行ない、午後は十分な休養をとりました。

二日は、午前中、昨日と同様日立グラウンドで、明日に備えての軽い練習を行ない、午後は十分な休養をとりました。五日は試合がないため、こちらに来て初めて外で昼食をとり、近くの東大周辺を散歩し、のんびりとした一日を過ごしました。六日、大宮サッカー場での準々決勝、対新潟工高戦は、多少選手に気負いが感じられ、苦しい試合となりました。植田の見事なフリーキックが決まり、1対0で勝利をおさめ、念願の国立競技場での準決勝に進出することができました。

試合開始

三日、初戦愛媛県代表南宇和高校との対戦のため、午前十一時宿舎を出発、江戸川競技場に向かいました。当日は雪交じりの雨が降っていて、選手のコンディションを心配しましたが、第一試合が始まる間もなく天候も回復し、寒さも

準決勝

七日、いよいよ決勝進出を掛けた対島原商高戦です。国立競技場は、三万五千という大観衆で埋まり、その中にわが「蹴上王者」の垂幕がひととき大きく目に入って来ました。



第3位表彰を受ける 於国立競技場

本校大応援団の声を聞き、選手は監督の指示通りの動きで善戦しました。前半は、前後半とも0対0のままPK戦にもつれ込むことになりました。しかし、思いもかけずPK戦に敗れ、惜しくも決勝進出を果すことができませんでした。多くの同窓生、OB、全校生徒、その他皆様のご期待、ご声援に感謝することができず、まさに残念でありました。しかし、選手は持っている力を十分発揮し、よく頑張ったと思っています。

こんな嬉しいことはありません。来年への決意と、今後の精進を心に銘記して、今後の精進を期したいと思っています。なお終りに、文中お名前をあげた方々のほかに、各方面多数の方より身に余る具体的なご指導、ご助力をいただきました。一々お名前をあげることができず、失礼とは思いますが、この紙上を借りて、併せて心より厚くお礼を申し上げます。本大会終了後、優秀選手三十名の発表がありました。本校からはGK岩谷佳史、DF松村昭吾、MF植田光紀が選ばれました。岩谷は長身を生かし、読みよきとポジションの巧みで安定した守りを見せました。植田は攻守両面すべてにわたってチームの精神的な柱となりました。松村は二年生ながら物おじしないプレーで大活躍しました。一月十三日から十五日まで、千葉検見川グラウンドで優秀選手三十人による合宿が行なわれ、植田が日本高校選抜として西独デュッセルドルフで行なわれる国際ユース大会に参加することになりました。(岐部琢美)